

行政や地域スポーツ組織と強力な連携・協働関係を築いた運営モデル (NPO法人 スポネットせいろう 新潟県聖籠町)

1. 町体育協会を中心にクラブを創設

「NPO法人スポネットせいろう」は、「いつでも どこでも いつまでも 気軽にスポーツ活動のできる環境づくり」を合言葉に、聖籠町体育協会を中心に、町内のスポーツ少年団、体育指導委員（当時）、高齢者団体及び小中学校関係者が集い、創設時から行政（以下、町）の積極的なサポートも受けながら、平成18年4月から本格的に活動を開始。設立当初から約1,500名の会員による大規模クラブが立ち上がります。

クラブ創設の発端は、町内スポーツ関係者の定期的な懇談会です。そこには町内の体育協会、スポーツ少年団、卓球やグラウンドゴルフ等の老人クラブ、一般スポーツサークル等の各々関係者が集まり、当時のスポーツ活動に関する問題点や課題について意見交換を行っていました。ある時「総合型地域スポーツクラブ」の話題がのぼり、活動システムの問題解消に役立てられそうであり、出席していた各関係者全員のメリットに合致したことからクラブ設立への活動がスタートしました。その過程では、様々な紆余曲折が多々ありながらも、隣接地域の既存クラブや他地域の先進クラブの視察に赴いた際には、「総合型地域スポーツクラブ」に対する強い衝撃と感銘を受け、改めてクラブ創設に意欲を燃やしたこともあったそうです。

現在では、設立当初と比べると、会員数が若干減少し約1,300名ですが、ここ数年は1,300名から1,400名の間で行ったり来たりを推移しています。減少の要因については、クラブにおける「団体」登録のルールとして、『会員が10人以上集まると「団体」扱いのサークル』としていますが、『サークルによっては徐々に10人以上集まらないケースが生じ、やがて「団体」を保てなくなり、結果的に退会してしまうことが多いのでは』とのことで、この点の対策は「今後の検討課題」となっています。

しかし、設立当初より会員数が若干減少したとは言え、現在、一般団体（チーム）が55サークル、スポーツ少年団が12単位団、中学校部・サークル活動が4クラブの他に、個人会員も140名がクラブに登録しています。また、運営費も会費収入、施設管理業務受託費、町からの補助金等を中心に年間約3,700万円の予算を確保しながら、定期的な各サークル活動の他に、教室を18、イベントを5つ、非会員でも100円で参加できるフリースポーツの日を月2回開催して、クラブとしては大規模、かつ、その運営もとても充実し安定していると言えるでしょう。

2. 行政との協働関係に加え、PTAともタッグ、相互補完の関係

クラブはその設立経緯として、当初から町体育協会をはじめ、スポーツ少年団や学校関係者が参加し、町がクラブ創設の支援に関与していることから、現在でも町や学校との関係は非常に良好です。今回の取材でも、クラブ事務局次長の安達勝間さんから「町から多大なサポートを受けている一方、町ができないことを我々がカバーしている」との発言もあり、その言葉には良好な関係が端的に表れています。

クラブは町から、運営に関する補助金や広報物の配布（詳細は後述）等の大きなサポートを受け一方、町と共に学校施設を含む町内のスポーツ施設利用の調整（詳細は後述）や施設の指定管理者受託等によって、町の事務量の負担軽減を引き受けています。町にとってもクラブにとっても、相互補完的にお互いのメリットが合致する関係を構築しています。

また、聖籠町内の中学校では、かねてより生徒全員がスポーツ安全保険に加入し、部活動に励んでいます。部活動では下校時刻の17時を超えて活動することもあるため、その時刻以降における活動をクラブが行う「社会体育」として扱っています。このことによって、部活動の時間が

より確保できるばかりか、「同一団体が行う活動」となるため、スポーツ安全保険の団体適用ともなります。さらに、部活動によっては、生徒以外にも参加できる機会を設けることもあり、学校とクラブとの距離感の近さを感じます。

このことによって児童・生徒においてもクラブが身近な存在となり、クラブ（スポーツ少年団等含む）への参加・加入が促進される等、クラブにとっても大いにメリットがあります。聖籠町には小学生が約900名いますが、350名がスポーツ少年団に登録し、登録数は増加しています。

この他、クラブの役員には、小学校・中学校の先生が各1人ずつ加わり、クラブ運営に積極的に関与することによって、学校との連携が円滑に図れる体制も整えています。

3. 町内スポーツ施設の利用調整をクラブが行う

町とクラブとの協働関係の中で最も特徴的と言える点が、1年に1回、「スポネットせいろう」に加入しているサークル等を対象に、町内のスポーツ施設定期利用の調整（時間・場所等）を、町教育委員会スポーツ担当とクラブと一緒にいるということがあります。しかも、この利用調整対象の「町内のスポーツ施設」には、学校の体育館や校庭といった施設も含まれているのです。この点は、全国的にも珍しいシステムと言えるのではないのでしょうか。

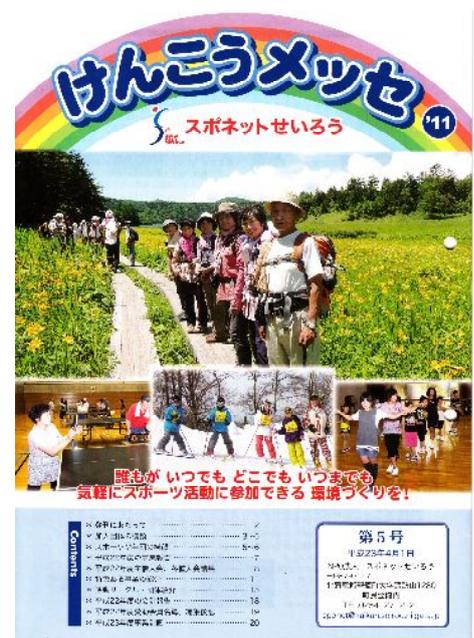
クラブでは、この「強み」を生かし、各サークルが安定的な活動機会を確保するために、学校施設を含む町内のスポーツ施設の利用状況やサークルの活動時間等を勘案し、会員に対するスポーツ機会の提供が円滑に図れるように調整を行っています。

特に、この施設利用調整の対象に学校施設を含んでいる点は、クラブの活動場所の確保に有効であり、かつ、町内スポーツ施設の利用が効率的となります。全国的には学校施設を利用する際の申請が、各学校の施設単位で申し込むことが一般的であり、効率性の点で一考の余地があることを考えると、聖籠町のこのシステムは、特徴的で特筆すべきシステムと言えるかもしれません。スポーツ施設が効率的に利用できるということは、つまり、会員である地域住民にとっても、スポーツ参加の機会が安定的に確保できる等のメリットが生じます。ここにも町・学校とクラブとの連携が効果を発揮しており、このことにより地域住民が恩恵を受けるという好循環が生まれています。

4. クラブ広報物を町内全戸に配布

クラブでは、年に1回、会員サークルの概要紹介や、教室等の事業実施報告をまとめた「けんこうメッセ」という広報物（カラー刷り、20ページ）を発行しています。また、この他にも月に1回、月々の教室・イベントの開催案内や、クラブの近況ニュース、子どもたちの活躍等を掲載した「スポネットせいろう」（一色刷り、1枚・両面）という広報物を発行し、クラブや実施事業の紹介・認知度向上を図っています。

ここで特筆すべきは、これら広報物の配布方法です。クラブのこれら広報配布物は、町内の全戸（約3,800世帯）に配布されています。もちろん、全戸配布のような大きな活動は、クラブ単独ではできません。実は、クラブの広報物は、町のご厚意により、町の広報誌と併せて、一緒に配布されているのです。このことによって、クラブにとっては広報物の印刷費のみ負担すれば、配布に係る経費が不要となり、そればかりか、町内の全戸に対して配布できるという、「広く周知を図る」という広報活動の最大の目的を果たすことができます。



5. 廉価な会費を実現する町の方針と手厚い支援

すでに上述の通り、「NPO法人スポネットせいろう」では、その運営システムとして、町との協働関係を築いていることが大きな特徴としてあげられるでしょう。しかし、これらの体制も、その根底にはクラブ設立当初から掲げる「いつでも どこでも いつまでも 気軽にスポーツ活動のできる環境づくり」の思いが原点であることがうかがえます。

その一例として、会費設定に係る考え方があげられます。クラブでは、広く地域住民にスポーツに参加してもらえよう、会費を廉価に設定しています。入会金は入会時のみ必要で、500円。年会費は、未就学児は無料、小・中学生・障がい者は1,000円、一般（60歳未満）は3,000円、60歳以上は2,000円です。

特に、各教室やイベントへの会員参加料は、思いきってビジターの半額以下に設定しています。例えば、クラブで実施している大半の教室は、約10回程度のコマ数で、会員が2,000円、ビジターが4,000円といった設定で、会員となるメリットにつながっています。

廉価な会費が実現できているのは、町からの補助金・委託金が安定的にクラブに提供されていることがあり、平成23年度からはトレーニングルームの指定管理も受けています。年間予算額の3分の2が町の資金となっています。その背景には、聖籠町では町で生まれ育った子どもたちが町に戻ってくるように、「子どもにかかるお金を惜しまない」という方針があります。また、クラブが地域のスポーツ組織を1つにまとめ町のスポーツ振興への貢献が大きく、以前あった町体協の役割を果たしていることもあげられます。

聖籠町には物流や発電などの大企業が多数立地し、その税収から町の財政状態が豊かであることも、手厚い支援を可能にしていると言えるでしょう。

6. 子育て中の親に大好評の「保育ルーム」

子どもをもつ会員が参加しやすい環境を整えるため、人気のヨガやピラティスの教室では「保育ルーム」を設置しています。会員がスポーツ活動を行っている間は、保育園や幼稚園を退職した方々等がパート職員として子どもの面倒を看ています。子どもを預けられることに大きな魅力を感じて、スポーツ活動に参加している人もいます。それでも、小さいお子さんをもつ親が抱える「スポーツ活動に参加したいが、子どもの面倒を看てくれる人がいない」といった悩みに対してクラブが真摯にこたえ、スポーツ活動参加の機会を拡げていることは間違いありません。

この他にも、1年に1回、会員の横断的・縦断的交流を目的としたイベントとして、「スポネットせいろうフェスティバル」を実施し、会員相互の交流はもとより、地域住民の交流が深められています。

今回のクラブ取材に伺って感じたことは、「クラブにとってメリットがある」とは、つまり、「会員にとってメリットがある」こと。「町（行政）や学校にとってメリットがある」とは、つまり、「地域住民にとってメリットがある」こと。今回の事例に限らず、組織や機関の垣根を越えて、その地域において互いにメリットのある相互補完の関係を、クラブ外の組織・機関や他団体と築いていくことは、今後、「自立」を目指す全国のクラブにとっても参考となるのではないのでしょうか。



左からアドバイザー小林氏、クラブの中村氏、安達氏、県体協の亀倉氏

（取材日：平成23年10月5日）

【NPO法人 スポネットせいろう プロフィール】

1. 設 立 設立年月日：平成 18 年 2 月 19 日

2. 地 域 聖籠町：人口約 14,000 人

新潟東港工業地帯（東北電力の火力発電所や LNG 基地などの立地企業多数）を有し、北新潟の交流拠点（国際貿易拠点）ともなっているほか、米・果樹などの農産物も豊富。また、平成 21 年度の高齢化人口率約 20%と町内 65 歳以上の高齢者人口が多くなりつつあるものの、少子化対策が充実しており、県内上位の出生率。

3. クラブ 会員数：1,298 名（平成 23 年 10 月現在）

4. 連絡先 〒957-0117 新潟県北蒲原郡聖籠町大字諏訪山 1280 町民会館内

TEL 0254-27-2121

FAX 0254-27-7976

E-mail: sponet@kaikan.seirou.niigata.jp

（11月1日から下記へ移転します）

〒957-0117 新潟県北蒲原郡聖籠町大字諏訪山 1288 聖籠野球場内

TEL 0254-27-1515

FAX 0254-27-1514

E-mail: 新しいアドレスを取得中